

新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金についてお願い

平素から学校法人同志社へのご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界中で多くの人々の生活が一変しました。学校法人同志社が設置する学校には、約4万2000名の学生、生徒、児童、園児が在籍していますが、政府の緊急事態宣言を受け、一時はすべての学校が休校等になり、教室で学ぶことができない状況を余儀なくされました。

その後、政府によって「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」における新型コロナウイルス感染症の位置づけは、2類感染症から5類感染症に移行されました。感染予防と経済活動を両立するWithコロナ社会において、各学校では、地域や卒業生のお力添えのもとで、社員が英知を出し合い、力を合わせて、学生、生徒、児童、園児に寄り添いながら、教育水準、教育環境の維持・向上のために努力を続けていますが、引き続き、学費支弁者への影響も大きく、就学をあきらめなければならぬ在学生が生じています。

そこで本法人としては、同志社教育を受けることを希望し入学した在学生が失意のうちに終わることがないように、窮地に立たされている在学生に対して、支援金を給付しております。

しかし、これらの取組を学費収入等で賄うことは難しいことから、「新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金」を開設し、卒業生、教職員のほか、広く社会の各方面からのご支援により多くの在学生が学び続けています。

つきましては、本募金事業の趣旨をご理解いただき、今後も引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご協力により、2023年3月末までに27,716,000円の支援ができることになりました。ご協力ありがとうございました。

寄付金募集要項

【募金目的】 長期化する新型コロナウイルスの感染拡大により、学費の支弁に著しい支障の生じた在学生に対し、支援金を給付すること。

【募集期間】 2020年6月1日から2026年3月31日まで

【お申込金額】 個人…一口 1万円（一口未満のご寄付についても有難くお受けいたします）

法人／団体…一口 10万円

【学校指定について】

支援を必要とする在学生数（学生、生徒、児童、園児）は、学校によって異なるため、支援対象者は同志社が決定し、同志社在学生修学特別支援金として給付させていただきます。

ただし、ご寄付いただく際に特段のご希望があらわれる場合は、寄付金の一部もしくは全額について、特定の学校をご指定いただくことができます（例：全額を同志社女子中高に指定。半分を同志社国際学院、残りを同志社に一任。etc.）。なお、この場合に大学を指定された場合は「ALL DOSHISHA 募金特定寄付奨学金」として、女子大学を指定された場合は「サポーターズ募金「ぶどうの樹」経済的困窮学生に対する奨学金」として在学生に給付させていただきます。

【税制上の優遇】

学校法人同志社は、文部科学省より「税額控除対象法人」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、同志社へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。

さらに、お住まいの地域によっては、住民税の「税額控除」の対象になります。

詳細は、<https://bokin.doshisha.ed.jp/tax/index.html>を参照ください。

【お申込方法】

「学校法人同志社 募金のご案内」からご寄付いただけます。

<https://bokin.doshisha.ed.jp/fund/shien.html>

クレジットカード、口座振替、ネットバンキング、金融機関窓口からの振込でのお申込みが可能です。

インターネットからのお申込みが困難な場合やご不明な点がある場合は、下記にお問い合わせください。

お問い合わせ：法人部法人事務室

京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL：075-251-3006 FAX：075-251-4980 E-mail：ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

<https://www.doshisha.ed.jp/>





同志社創立 150 周年記念募金

2025年同志社は創立150周年を迎えます。それを記念して、次の各学校の募金事業の総称として「同志社創立150周年記念募金」の名称を冠として付けています。以下の学校法人同志社並びに各学校の募金事業内容については、以下のHPでご確認いただければ幸いです。

<https://bokin.doshisha.ed.jp/index.html>



学校を超えた連携の支援

学校法人同志社

同志社創立150周年記念事業募金
新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金
同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金



各学校の個別支援

同志社大学

同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金
(対象事業)

- ・リーダー養成プログラム運営支援
- ・グローバル化の促進支援
- ・高大接続プログラムの展開支援
- ・特定寄付奨学金
- ・育英型奨学金
- ・スポーツ活動充実資金
- ・文化系公認団体活動充実資金
- ・今出川校地新図書館建設 等



同志社女子大学

同志社女子大学サポーターズ募金“ぶどうの樹”
(対象事業)

- ・教育・研究環境の充実
- ・経済的困窮学生に対する奨学金
- ・寮生に対する生活支援
- ・グローバル人材育成
- ・学生の課外活動支援
- ・キャリア形成支援
- ・キャンパス緑化推進支援
- ・特定の学部・学科等支援 等



同志社中学校・高等学校

同志社高等学校教育研究協力資金募金
同志社高等学校教育施設建設資金募金
同志社中学校教育研究協力資金募金
同志社中学校教育施設建設資金募金
同志社中学校・高等学校給付奨学金募金



同志社香里中学校・高等学校

同志社香里中学校・高等学校
教育施設等整備資金募金



同志社女子中学校・高等学校

同志社女子中学校・高等学校
教育研究施設・設備整備資金募金



同志社国際中学校・高等学校

同志社国際中学校・高等学校
教育施設等整備資金募金



同志社小学校

同志社小学校教育支援
および施設・設備整備資金募金



同志社国際学院

同志社国際学院初等部教育支援
および施設・設備整備資金募金



同志社幼稚園

同志社幼稚園教育援助募金



ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

【企画展】

ハリス理化学館同志社ギャラリー第30回企画展

男女共学実施100年 社史開設60年 同志社ギャラリー開設10年

「女子学生の現在地—同志社大学のダイバーシティ前史—」

日 時：2023年10月3日（火）～11月28日（火）

場 所：2階 企画展示室

主 催：同志社大学ダイバーシティ推進委員会、同志社大学同志社社史資料センター、同志社大学ダイバーシティ研究センター

協 力：上智学院ダイバーシティ推進室、上智学院ソフィア・アーカイブズ、同志社女子大学史料センター

内 容：大正時代、内閣の諮問機関である臨時教育会議は、議題の一つに女子高等教育を取り上げ、答申を提示しました。その中で、1913（大正2）年に女子学生を受け入れた東北帝国大学の事例が、女子高等教育の在り方のある意味でモデルとなり、方向性を示すことになりました。本学においても、1920（大正9）年の大学令に依る旧制大学開校以降、大学での女子学生受入を模索し、実践してきました。なかでも、1923（大正12）年に文学部英文学科本科（のちに正科ともいう）に女子学生4名が入学した事例は、現在国内で公表されている情報を精査する中で、私立大学では最初の事例となります。彼女たちの入学はちょうど100年前でした。

これを機として、本企画展では旧制大学における女子学生への高等教育の開放の過程と、その前後の史実に見られる男女共学の在り方、すなわち、今後推進していくダイバーシティの前史を資料で辿ります。また、昨年度まで同志社大学と上智学院で実施した文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」をふまえて、教育基本法に基づき1948（昭和23）年より男女共学の新制大学として再出発した同志社大学と、1957（昭和32）年に男女共学化した上智大学関連資料も展示し、東西のキリスト教系大学の事例を示して、戦後の男女共学の状況を概観します。



古写真「A.J.スタークウェザーと
バイブルクラスの生徒」



集合写真「国際連盟同志社支部」
卒業アルバム（1927年所収）

【入 場 料】 無料

【開館時間】 10：00～17：00

（最終入館16:30まで）

【閉 館 日】 日曜日（企画展開催中を除く）

月曜日・祝日・GW・夏期休暇中の

一定期間・年末年始

【場 所】 同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。

【お問合せ先】

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

TEL：075-251-2716

FAX：075-251-2736



新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【公開期間】 4～7月、9～11月、3月

①通常公開 毎週火・木・土曜日（祝日は除く）

②特別公開 春の特別公開 4月1～5日
オープンキャンパス（2023年度分は終了）

秋の特別公開 10月1～5日

ホームカミングデー 11月12日

創立記念日 11月29日

卒業式当日 2024年3月20～22日

※公開日の詳細はHPをご覧ください。 <https://archives.doshisha.ac.jp/>

【公開時間】 10：00～16：00（入館受付は15：30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と付属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入 場 料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10：00～16：30）。



お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



同志社女子大学史料センター 第27回企画展 新島襄と同志社の人々―影月堂コレクションより―

「影月堂コレクション」は、同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科の吉海直人特任教授が永年にわたって収集してこられた資料群である。今回、このコレクションの中の同志社の歴史に関するものが、一括して同志社女子大学史料センターに寄贈された。その中には、山本覚馬の『管見』の写本といった重要な資料も含まれている。このコレクションから、同志社の創設者である新島襄、その夫人の八重、八重の兄であり新島の無二の協力者であった山本覚馬、さらにはその後の同志社にかかわった人々についての資料を紹介する。

期 間：2023年11月17日（金）～2024年7月31日（水）

時 間：10：00～16：00

閉室日：土・日・祝日および2023年11月29日、12月25日、12月27日～2024年1月4日、4月30日、5月1日～2日

（ただし、2023年11月18日～19日、2024年5月6日、7月15日は開室しております。）

場 所：同志社女子大学史料センター

（今出川キャンパスジェームズ館1階展示室）

主 催：同志社女子大学

★公開講演会★

日 時：2023年12月9日（土）14：00～15：00（終了予定）

演 題：同志社女子大学・新島八重と私―資料収集について―

講演者：吉海直人氏（同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科特任教授）

会 場：今出川キャンパス内

※詳細は決まり次第、同志社女子大学HPやチラシなどでお知らせいたします。



故新島襄氏之肖像（1890年）

聯邦志略（1861年）

新島八重 直筆短冊（八重八十七歳）

池袋清風 和歌短冊（1880年）

お問い合わせ：同志社女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

同志社校友会からのお知らせ



同志社設立10年後の1885年に「アルムニ会」として発足したのが、同志社校友会の始まりです。主な目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じた学生の支援です。現在、約36万人の会員となり、国内はもとより、各国に支部があります。

2020年春からコロナ禍で、経済的に困窮している学生支援のため、同志社大学と連携して2020年5月から6月にかけて商店街やスーパーで利用できる食生活応援クーポンを配布し一人暮らしの食生活サポートを行う事ができました。

その後も、「同志社校友会ランチプロジェクト」を立ち上げ、学内の食堂において、200円の補助をすることで、学生の経済的な負担を軽減するとともに、安定した食生活ができるようにしてきました。

2022年12月には累積で約33万人の支援ができました。学生アンケートでは、感謝の声に加えて、「私も将来就職して社会的地位を上げて、このように後輩たちをぜひ支援したいと強く感じました。」という声も寄せられ、支援の有益性を全国の校友と共有させていただきました。

今後も、様々な学生への支援を継続し、充実した学生生活を送ってもらえるよう対応してまいります。

活動の概要

①卒業生と繋がる同志社校友会

2023年6月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し卒業生に対して、現地の校友会がサポートをしています。

連絡先は、右記コードまたは、 で検索してください。



②大学と繋がる同志社校友会

同志社大学が掲げるリーダー養成、グローバル化への支援、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の推進など大学と連携した活動を行っています。

③学生を支える同志社校友会

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。

同志社校友会事務局

TEL 075-251-4393

E-mail info00@doshisha-alumni.org

同志社同窓会の歩みと年間行事・事業



同志社同窓会は1876年に同志社女学校が創立された17年後の1893年、96名の母校愛にあふれた卒業生と有志により設立されました。制定された規約の第1条には「会員たるものは相互の交誼を密にし且同志社女学校の益を図るを目的とする」と記されています。

女学校の創設期、アメリカン・ボード（支援はウーマンズ・ボード）から派遣された女性宣教師らとともに過ごす寄宿舎での生活を通して女生徒たちはキリスト教の価値観、生活様式を身につけ【自立した女性とは神の恵みに感謝し、他者に仕える喜びを見出す、すなわち「地の塩・世の光」（マタイ5：13）となる女性】と教えられました。

深い慈愛をもって育まれた卒業生たちは卒業後も良き姉妹として年に1度「母校に帰る日」を決めて集まり、礼拝をもって総会を持ち、年会（大同窓会）を開いたとの記録が残っています。その会では、教職員と生徒らも共に集まり大親睦会として余興なども行われたようです。また、現在の『同志社同窓会報』の前身である『同志社女学校期報』は同窓会の創設事業として発行されました。その中で、母校の教育のレベルアップの為に必要不可欠な書籍や校舎維持費など、必要な資金を得るために同窓会挙げて募金活動を大々的に行っていたことが記載されています。

同志社同窓会は同志社を愛し、女学校と女生徒また卒業生らをご自分の分身のように愛し抜かれたM.F.デントン先生から多大な感化を受け、その教えを守って様々な活動を続けています。母校への寄付金を集めるために、と教えてくださったバザーは同志社同窓会の大切な行事の一つとなっています。

2023年に創設から130年となる同志社同窓会は、女子大学、大学院、女子高校及び中学、旧制女専、高女の卒業生・修了生によって構成されており、62支部（国内59支部、海外3支部）に95,000名を超える会員を有しています。また、本部は役員30名、常任幹事20名、監事2名のほか、各学年代表の幹事からなり、組織として同志社同窓会の中に同志社女子大学《Vineの会》と同志社女子中高同窓会「同志社ゆかり会」が置かれています。

年間活動と行事・事業

春（5月）と秋（9月）の幹事会

7月 同志社同窓会総会

3年に1度は総会の前日に支部長会開催

10月 バザー開催

11月 全同志社リユニオン（法人同志社、同志社大学、校友会と共催）
同窓会ルームで催物

12月 ミス・デントン永眠記念墓前礼拝（相国寺 長得院の墓前での礼拝）

2月 新島襄生誕記念会（学校法人同志社、同志社校友会と共催）

3月 女子高、女子大学卒業生対象入会式

その他、奨学金贈呈や会報の発行、同窓会館の運営（紫苑会講習としてヨーガ、華道、茶道、料理教室を開講）、貸室、女子中高購買・食堂の運営